（第５回日本土木史研究発表会論文集　1985年６月）

語源から見た西欧と日本の道概念の比較

建設省土木研究所　正会員　篠原　修

A Comparative Study on Road Images between Japanese and West Eouropean from the Etimological Point of view

by Osamu Shinohara

Abstract

In the paper , the difference and sameness of the road images between Japanese and French,German,English are investigated.Many sorts of words of road were picked up from these four languages first, and then the original meaning of the words were inquired from the etimological viewpoint. The road images were discussed and compared by means of these original meanings finally. As a result , the basic road images of Japanese were classified into following six categories. (1) as a orientation indicator (2) as a space for passing (3) as a element to divide and enclose houses (4) as a element of connecting (5) as a thing having long streching form (6) as a way of go and back,former two are pure Japanese images and the latter four are Chinese-Japanese ones . On the other hand,the basic images of French, German and English were classified into nine categories. (1) as a breaked way (2) as a way to reach (3) as a way of paved or unpaved (4) as a space for rambling (5) as a trodden way (6) as a way on wall (7) as a way beside water (8) as a horse riding way (9) as a city boundary element.

［キーワード；道概念，語源］

１．はじめに

対象に対して人間が抱くイメージ、その内容、意味を最も端的に表現しているのは言語であると考える。この観点から、本研究では道を表わす言葉を手掛りに民族の道に対する原イメージ（集団的深層心理と言ても良い）の異同を明らかにしようとした。

今回は日本語、仏語、独語、英語を対象に、まず各國語に表現されている道の種類を整理した。次にこれらの語源をたずね、それらを比較することにより各言語おける概念の異同を考察した。

２．道の種類とその内容

仏語、独語、英語の都市地図及び都市、道路関係の書籍から抽出した道の種類を、文末の辞典類により整理した。その結果を表－１から表－４に示す。整理に際しては、縦軸を道の位置による分類とし①道一般を指す言葉　②都市内の道、すなわち街路を指す言葉、③郊外、自然の中の道を指す言葉、の３分類とした。横軸は基本概念、派生概念（基本概念に修飾などが付加されて形成された概念）、附随概念（本来道ではないが何らかの事情で道の役割を担うようになった）の３分類とした。以下に各国語の特徴的な言葉を簡単に紹介する。

（１）日本　　道概念を表す言葉には和語と漢語がある。道一般に関しては「みち」が和語、「道」が漢語であり、街路では「とほり」が和語、「街」「路」が漢語である。これらの基本概念から「みち」に対しては並木道、散歩道などが派生し、「道」に対しては海道（海辺の国々に通じる道）、山道（海に遠く、山間に通じる道）などが派生したと考えられる。とほりに対する表通り・裏通り、路に対する大路・小路、袋小路なども同様である。基本概念（

特に和語の）が少ないのが特徴である。

（2）仏語　道一般を指す場合にはvoieが使われる。街路ではrue、avenueが最も多く使用される。avenueは通常並木を備え、rue に比べて広幅員である。また並木のある大通りをboulevard と称しているが、これは城砦の塁道という意味から転化したものとされている。袋小路を意味するcul-de-sacは世界共通語となった（impassという言い方もある）。さらに都市の周辺という意味から環状道路を意味するようになったperipherieも仏語特有のものであろう．

（3）独語　道一般を指す場合にはWeg が使われる。街路は普通Straβe で、幅員狭小のものをGasse と称している。並木を備えた大通りはAlleeである。水辺に関する道にはKai とDammの２種があり、仏語のquai、chaussée、日本の河岸、土手道に対応している。しかし英語には後者に対応するenbankmentしかない。また、Wallは仏語のboulevard 、英語のwallに相当するが、この概念が和語にないのは周知の所であろう．

（4）英語　英語の顕著な特徴のひとつは道の種類が多い点である．大陸に対する島国と言う共通点にもかかわらず，英国の豊富さ，日本の貧弱さという対照があり興味深い．道一般にはway,roadが使われ，街路ではstreetが最も多く，road,avenue も使われる．ちなみに一般化したmallはLondonのSt. James 公園北側のもとpall-mall 球技場のあった広幅員木陰路からはじまったと言われている．

3．道概念の比較

3．1　道概念のグループ化

ここでは前項で挙げた道の種類を語源の観点からグループ化し、その言葉グループの特徴、原意義を明かにする。

（1）日本語　和語の「みち」の「み」は美称あるいは発語であるとされる。したがって「みち」の語根は「ち」ということになり、「あっち、こっちや「こち」の「ち」の使われ方に示されるように、方角、方向あるいは場所を意味するが原意とされる。表－1の「すぢ」「ろぢ」などは「ち」のグループである。この原意から見ると、たとえば大和路とは、大和に達する道ではなく、大和の方角へ行く道ということになる。

以上の「みち」グループとは別に和語には「おほどほり」「きりどほし」などの「とほり」グループがあり、和語の道の基本の概念は、この２つに集約される。

漢語の方の基本概念は「街」「路」「道」である。街は「画」「畦」と同グループで、その基本義は「とりまく、周囲に区切りをつける」である。「畦」は「田＋圭声」で、田畑を区切って囲む道である。

「街」は「行＋圭声」で家々の集まりを区切って取りかこむ道である。次の道は「足＋各」の会意文字で絡と同系、経（たての道、南北の道）を横に連絡するヨコ道（東西の道）が原義であり、結局、路とは連絡する、結びつけることを意味する。

最後の道は、「辵＋首」の形声文字で、「道を歩く、ズルズルと長々引っぱる」が原義であり、道とは「ひとすじに長々と続く道」ということになる。

このような手順で言葉の意味を明らかにしていっ

表－1　日　本　の　道（現代の意味）

	基本概念	派生概念	付随概念
道一般	（み）ち　（和語） 道（ダウ）（漢語）	道路 並木道　散歩道　土手道　野道　山道	坂 切りどほし
市街地の道	街（ガイ）（漢語）　街路 路（ロ）（漢語）　大路・小路 丁、町（漢語）　横町 条（漢語） とほり（和語） すぢ（和語） 辻子（図子）（和語）	袋小路　広小路 一条、二条 大通り　表通り・裏通り	河岸 参道 神見世
郊外の自然道	道（ダウ）（漢語）　道中 往還（漢語） 路（ヂ）（和語）	海道　山道　街道	峠

表－2　仏　国　の　道（現代の意味）

	基本概念	派生概念	付随概念
道一般	voie ①道、道路 route ①道路、街道 piste ①急造道路		Pente ①坂 trottoir ①歩道
市街地の道	rue ①街、通り、往来 avenue①並木道、大通り、（大都市、並木あり）②通路 allée ①並木道、散歩道、②（庭園、公園の）小路 ③家の出入口 passage ①通路、アーケード promenade ①散歩、散歩場 peripherie ①（都市の）周囲	cul-de-sac ①袋小路 impass ①袋小路、袋町	quai ①河岸 boulevard ①（城砦の）堡道、 ②並木のある大通り chaussée ①堤防、②土手道 ③車道
郊外の自然道	chemin ①道、路 pas ①難路、剣路 sentier ①（野山の）細道、小径 corridor ①隘路、廻廊		

表－3　独　国　の　道（現代の意味）

	基本概念	派生概念	付随概念
道一般	Weg ①道、道路、②道筋、道程 Route ①道筋 Bahn ①（道）路、鉄道、②進路、方向 Chaussee ①本街道、②（市内の）大通り	Fuβweg ①小道、歩道 Autobahn①高速（自動車）道路	Stieg ①坂道
市街地の道	Straβe ①道路、街路、②車道 Gasse ①路地、横町、②狭い通路 Allee ①並木道、並木遊歩道 Passage ①通行、②通路、アーケード、抜け道 Promenade ①散歩、散歩道 Ring ①輪、②環状道路	Sachgasse 袋小路	Wall ①土堡、堡壁 Kai ①埠頭、突堤 Damm ①堤、堤防 ②車道、③埠頭 Platz ①広場、広小路、②場所
郊外の自然道	Paβ ①パス、②隘路、峠、間道 Pfad ①小道、細道		

表－4　英　国　の　道（現代の意味）

	基本概念	派生概念	付随概念
道一般	way ①方向、方角、 ②道筋 ③道路、④通行 road ①道路、（都市の）街、 ②道筋 route ①路、道筋	highway ①公道、本道 parkway （米）①公園道路 ②自動車専用道路 byway ①脇道 moterway	slope ①坂、②勾配
市街地の道	street ①街、街路、②大通り、本通り avenue ①並木道、②（通例両側に植木を植えた）玄関口の通路 lane ①（生垣、家などの間の）小路、路地 row ①列、家並、街、～通り passage ①通行、②通路、抜け道、廊下 promenade ①遊歩、②舗装散歩場 alley ①（庭園、公園などの）細道、小路 ②横町、路地	highstreet ①本通り、 （米）mainstreet backlane ①裏通り blind alley 袋小路	wall ①壁、城壁 embankment ①堤防 mews ①うまや、うまやのある小路 gate ①（北英）街、通り arcade ①アーケード、屋根つき街路 court ①中庭、②（裏町の）路地 park ①駐車場 place ①広場、広小路 ②通（固有名詞で）短い通り、路地 mall ①木陰のある遊歩道
郊外の自然道	drive ①ドライブ道、②（邸宅に通じる）私設車道 ③公園（森林内）の車道 pass ①（山）道、峠、～越、②横道 path ①道、小路、②競走道、③通路 walk ①歩行、②散歩、散歩道	by-pass ①バイパス footpath ①歩道	

た結果、日本の道概念は次のような６つのグループにまとめられた。

①「ち」グループ．方角・方向、場所概念の道。

②「とほり」グループ．通るという行動概念の道。

③「街」グループ．家並を区切る、とり囲むを原義とする道。

④「路」「丁」グループ．連絡する、結びつけるの意の路。すでにある道に対しＴ型に当る意の「丁」。いずれもより基幹的な道に対する関係で意味持つ道。「町」も同じ。

⑤「道」グループ．細長く伸びる、細長く一つづきであることが原義の道。「海道」など。「筋」もここか。

⑥「住」グループ．行く、帰るという行動からきた道の概念．「住還」など。

なお、「さか」は「シナカ（級岳）」の略とされ（「カ」とは場所の意味）、傾斜した場所の意。又「辻子」は「ずし」と思われる。しかし、和語では一般に語源がわかっていないことが多く、辻子もその例外ではない。

（２）仏語、独語、英語．　この３ケ国語は多くの共通点を有している。いずれもその語源をたずねるとラテン語にたどりつくことが多く、又道に関する独、英語は仏語からの借入語が多い。従ってここは、３ケ国語をまとめて扱う。

①まず、独、英で街路を代表するStraβe.streetを取上げる。これらの語源はラテン語のstrataである。（舗装した）市街道、大道の意味のstrataの動詞は、sternóでその意味は（ａ）平らにする、滑らかにする、（ｂ）舗装するである。Straβの意味はder gepflasterte Weg（舗装した道）である。この対語はungepflaster Weg in der stadt(舗装していない街の道）を意味するGasse となっている。しかしGasse はラテン語系ではなくゲルマン系の言葉で、英語の道、街路の古称であるgate（門を意味するgateとは語源を異にする）と同類である。すなわち、舗装の有無が重要性を持っていたわけで、日本にはついぞ現われなかった概念である。

②次に現在一般に並木道を意味するavenue、allée の語源を見る。英語のavenueは１６００年頃仏語から借入されたとされている。仏語のavenueはavenir（近づく、到着する）に由来するとされ、その語源はラテン語のadvenireである。advenio はその動詞形で、意味は（ａ）～へ到着する、～へ来る（ｂ）現われるである。つまり語源から言うとavenueは帰還の道、到達の道となる。これがどのような経緯から並木道になったのか。ここからは推測になるが、館へ達する道が並木で飾られることが多かった為ではなかろうか。ちなみに英語のavenueは現在でもcountry house の玄関に通じる並木道の意味がある。

独語のAllee は仏語のaller から来ており、その語源はラテン語のambulàreで、その動詞形はambulō（ａ）遊歩する、あちこち歩く（ｂ）遠足する（ｃ）行軍するである。つまり、ぶらぶらあるく、（遠くまで）行くがその原意である。

以上から、並木道にはぶらぶら歩きのための道という意味と、館などへ到達するための飾られた、見栄えのする道という２つの意味があることになる。

③ここで、同類の遊歩場（道）を意味するpromenade を検討しよう。英語のpromenade 、独語のPromenade はともに仏語からの借入で、その語源は後期ラテン語prōminăre である。これは、pro-minareでpro は～の前に、前方へを意味し、minareの動詞形minor は（ａ）突出する（ｂ）おどす、脅迫するである。つまりprōminăre の原意は「おどして前へ」であるが、これではよくわからないしかし、後期ラテン語のprominăre には to drive (cattle) out to pasturの解説がある。つまり「家畜を牧場へ追いたてる」となる。家畜を追いたてる牧童の様子は、一見するとのんびりしたぶらぶら歩きのようにも見えなくもないと解してみた。結局promenade では、ある目的を持つ行為が外見で判断されて、ぶらぶら歩きの意味になり、それがついにそのぶらぶら歩きの場所を意味するようにとなったと考えられる。

同類の日本語には「おいわけ」がある。その語源は「駄馬，駄牛を追分くる意」とされている。家畜を追う行為が西欧では遊歩場に、日本では道の分岐点を意味するようになった。同様の行為から出発しながら生活様式の差が道概念の対照を生み出した好例といえよう．

④次に通行を意味するpas.Paβ、passの語源を調べる．独語のPaβは仏語のpas から来ている。英語の

passには２つの意味があり、第１は仏語のpass（通行）.第２は仏語のpas （難路、峠語）から来ている。従ってその原意を知るには、pas とpasse の語源を調べればよい。pas の語源はラテン語のpasum, passe のそれはpassare 、passusである。passum、passus は同じで、歩み、歩調を意味し、その動詞形のpando は張る、広げる、伸ばす、開くという意味である。viam pando で道を開拓するを意味する。こうみてくるとpas 、Paβ、passの原意は結局切開いた道ということになろう。この意味は現代にもよく残っている（表－２～４）。またthe Simplon passなどの実体にもよく合致している。

このpas に対応する日本語は「たうげ」であるがその原意は「たむけ（手向）」とされるので、同じ峠ながら、西欧では人間の意志で突破し、切開いた道を、日本では神にあいさつし、祈る所を言うのである。峠の原イメージには驚くほどの相違がある。

⑤以上のpassに似た言葉に英語のpath、独語のPfadがある。pathの語源はゲルマン語のpapoで、インドヨーロッパ語ではpent－とされる。pent－の意味はtread 、goである、その原意は「踏みつける、行く」であり、これはPfadも同様である。日本語の踏み分け道、けもの道と同類の概念である。

従って、おなじ小径とは言いながら、ラテン系のPaβ には（軍事のために）切開くという人間の意志が反映し、ゲルマン系のpath,Pfad には自然（ジネン）性が濃厚であるとの言えよう。

紙面の都合上、言葉についてのこれ以上の説明は省略せざるを得ないが、上述してきたような、調査結果をまとめると、西欧３ケ国語の道概念は次のようになる。

①pas,routグループ.道を切開く、突き抜いていくのを原義とする道概念。ここには人間の強い意志が反映している。pas,Paβ,Pass,ronte,Route。これらに対し、passage Passage,もやはり同じpas から出ていて同義であるが、街中を突き抜けて行くという意味あいを持たされている。（突進するの）rue,（引っかく，裂くの）row,impassもこのグループに属する。

②avenue,wayグループ。到達する、行くを原義とするが、①程の意志の強さの反映はない。ここには「馬に乗って行く」のroadも含まれよう。

③Stra βe グループ。舗装の有無を重視する道概念。street、Gasse.「踏みならし道」のBahnもここに入ろう。

④promenade グループ。ぶらぶら歩く、歩き廻るを原義とする道概念。allée、Allee、sentier

⑤pathグループ、踏みつけるを原義とする道概念。Pfad. 自然に出きたという原イメージがある

⑥Wallグループ。中世都市の城壁を道の発生とするwall,boulevard。日本にない道概念である。

⑦qui、chaussée グループ。水辺の道. 河岸系と堤防系の２系統がある。Kai,embankment

⑧馬と結びついたグループ。road.「路地の両側に並べたてた（私設の）馬屋」から転じたmews。

⑨ringグループ。都市外周の道、環状の道を意味する。これも日本にはない道概念である。

３．２　道概念の比較

以上の結果を一覧としたものが表－５である。表では、道の種類を再び道一般、市街地の道、郊外、自然の中、の道に大別し、ここに各国語の道概念を原義により位置づけている。以下この表により彼我の道概念の異同を考察する。

（１）道一般　道一般に関する概念を大まかに捉えると次の４分類となる。

（ａ）方角、方向としての道概念、和語の「ち」が代表的。Weg,way の原意にはこの意味はない。

（ｂ）形状に着目した道概念。道。

（ｃ）連絡するという機能の道概念。路。縦横、南北・東西の意を重くみると方角、方向の道概念ということになる。

（ｄ）行く、運ぶ、切開く、踏みならすという人間行動や意志が反映している道概念。

西欧では（ｄ）の道概念が圧倒的である。和語には「きりどほし」があるが、これは郊外、自然の小径の「越え」に入る付随的な概念であり、道のほんの一部分にすぎない。

（２）市街地の道　　市街地の道を便宜的に、街路一般、並木道・遊歩道、墨道、水辺の道、交差、その他に分けてみた。

表－5　道の概念一覧

	日本 (和語・漢語)	仏国	独国	英国	語源
Ⅰ．道一般					
(a) 方角・方向の道	(み) ち				
(b) 細長く伸びた道	道 (ダウ)				
傾斜した道	さか	pente	Stieg	slope	
(c) 連絡する道	路 (ヂ)				
(d) 切開 (拓) いた道	きりどほし	route	(Route)	(route)	raptam(L)
踏みならした道			Bahn		
行く道、運ぶ道	往還		Weg	way	wegh- (IE)
馬でいく道、 騎っていく道				road drive	reidh-(IE)
		voie			via(L)
Ⅱ．市街地の道					
1．街路一般					
(a) 大きな道 小さな道	大路 小路、路地			alley	
区画し、 取り囲む道	街路				
(b) 細ながく一続きに なった道	筋、すぢ			row	
広くなっている道	広小路	place	Platz	(place)	platea(L)
(c) 通行する道	とほり				
行く(突進する)道		rue(ruer) allée	(Alle)		(rou)
行き止りの道	袋小路	impass cul-de-sac		(cul-de-sac)	
(d) 舗装した道 舗装していない道			Straße Gasse	street	strata(L)
(e) (家々の間を)突き 抜ける道 切開いた道	巷(チマタ) 途子(ヂシ)	passage	(Passage)	(passage) lane,row	passare(L) rei-(IE)
2．並木道・遊歩道					
到着する道		avenue		(avenue)	advenire(L)
ぶらぶら歩きの道		allée promenade boulevard	(Allee) (Promenade)	alley (promenade)	ambulare(L) prominare(L)

3．塁道		boulevard	Wall	wall	vallus(L)
4．水辺の道					
河岸の道	河岸(カシ)	quai	Kai		
堤防の道	土手道	chaussée	(Chaussee)	embankment	
5．交差					
十字に交わる道	辻				
T型に当る道	丁、横丁				
6．その他					
外周の道 環状の道		peripherie	Ring	ring	
まがった道				crescent	
うまごやの道				mews	
Ⅲ.郊外、自然の中の道					
1．大道、公道					
(a) 切開(拓)いた道		route	(Route)	(route)	raptam(L)
(b) 海辺の道	海道				
山間の道	山道				
街をつらねていく道	街道				
(c) 公道 脇道	本街道 脇街道			highway byway	
分かれ道	おひわけ				
2．小径					
(a) 難関を突破した道 峠、～越え	たうげ	pas	Paß	pass	passum(L)
(b) 自然にできた道	けもの道 踏み分け道		Pfad	path	pent-(IE)
歩きまわる道		sentier			semita(L)

まず始めに指摘しておかねばならぬのは、和語の語彙が極めて貧弱な点である。道一般概念を含めても、和語の基本概念には「ち」と「とほり」しかない。日本語では次々に入ってきた外来の道の種類に対して、全て派生語とした処理してきたと言える。道の種類に対応して全て別種の言葉が存在する西欧の概念の豊富さとまことに対照的である。

さて、街路一般に関する概念は次のようにまとめられる。

（a）区画する、道の大、小のランクづけといった都市計画的な道概念。漢語であり、今回の語源調査の限りでは意外にも西欧にこれに対応する概念がない。

（b）形状に着目した道概念。道の長さ、連続性に対する注目と幅員に対する注目の２つがある。５の交差の辻、丁や６のcrescentも形状への着目である。

（c）通行する、行くという人間の行動が反映した道概念。２の並木道のavenueもここに含まれる。又、allée,promenade も同様の範疇と言えよう。

（d）路面状態を重視する道概念。

（e）家々の間を突き抜ける、切開くいう家並との関係に注目した道概念。但し、（a）とは対照的に、この概念の道には計画性が認められない。

ここで面白いと思うのは、並木道の原意が到着、ぶらぶら歩きという人間の行動にあり、樹木のイメ

ージが出てこない点である。又、城壁のなかった我国にboulevard, Ring がないのは周知の所である。

（3）郊外、自然の中の道　ここでは大道・公道と小径の2分類とした。勾論前者は道一般と重複する。興味深いのは漢語の海道、山道、街道といった道が通過する地域の大まかな性格を示す概念が西欧に見られない点である。

4．まとめ

以上を総括すると、西欧の道概念には人間の行動、意志が強く反映し、漢語には、象形文字故かと思われる形状への着目と都市計画的概念が反映している。これに対して、和語は語彙が極めて貧弱であることに加え、「ち」に代表される感覚的な捉え方が強いように思われる。

和語の語彙不足が、日本人の道に対する感性の鈍なることを示しているのであれば事態は容易ではない。河川に関する豊富な語彙、例えば瀬、淵、澪、洲など、と余りに対照的であると言えよう。

5．おわりに

本研究程度では、道に関する言葉の収集は不充分であり、その分析も精緻とは言い難い。特に日本に影響を及ぼした中国や朝鮮の言葉の収集の必要性を強く感じている。

見方によれば、これは研究ではなかろう、という批判があろうことは筆者もよく承知している。しかし研究、study の語源はラテン語のstudium 、熱中である。どう役立つかはわからないが、この報告が一つの刺激となって我国の道や都市に関する基礎研究に「熱中」する人間が増えていくことを期待している。

なお、本研究は昭和56年度の鹿島学術振興財団の研究助成を受けた「土木施設景観の文化的特性に関する研究」の中の「街路の種類と概念」を要約したものである。又、仏語については天野光一氏の教示受けた。記して感謝したい。

参考文献

1．和語

大槻文彦：新訂大言海、富山房、1988新訂、66版

山田宗睦：道の文化、講談社、1969

大野晋他編：岩波古語辞典、1981、'8 版

：類語新辞典、角川、1981

2．漢語

藤堂明保：漢字語源辞典、学燈社、1979、19版

3．仏語

鈴木信太郎、朝倉秀雄：DICTIONNAIRE STANDARD FRANCAIS-JAPONAIS、大修館書店、1924、22版

A.Dauzat, J.Pubois, H.Mitterand:NOUVEAU DICTIONNAIRE ETYMOLOGIQE Larousse, 1981

；PETIT LAROUSSE ILLUSTRE, Larousse, 丸善

4，独語

相良守峰；SAGARA GROSSES DEUTSCH-JAPANISCHES WÖRTERBUCH, 博文社，1960, 6版

ベルト，シンテゲル；WÖRTERBUCH DER DEUTSCHEN und JAPANISCHEN SPRACHE, 三修社，1980, 624版

5，英語

山稲森男；KENKYUSYA ' NEW ENGLISCH-JAPANEASE DICTIONARY. 研究社，1980, 5版初刷

6，ラテン語

田中秀男；増訂新版羅和辞典，研究社，1972, 6刷

7，一般書

ギーディオン，S．太田実訳；空間・時間・建築 1，2，丸善1969

日本道路協会；道路技術用語辞典（仏英独日語対照表），1967

McCluskey, J:Road Form Townscape, A. P. 1979

Rudolfsky, B. 平良敬一他訳；人間のための街路，鹿島出版，1973